

<コラム④>長安ロダム堆砂対策の緊急性

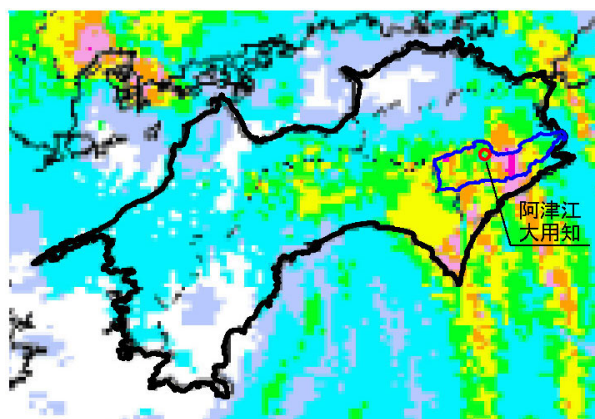
～平成16年8月洪水と土砂対策～

平成16年7月30日夜から降り出した雨は、台風10号の接近とともに激しくなり、台風が通り過ぎたあとも、湿った空気が太平洋から四国に流れ込み、那賀川流域の那賀町海川から沢谷にかけて細い円弧状の雨域が長時間続きました。そのため、海川観測所(四国電力(株))では、1日の降水量の日本記録となる1,317mmを記録しました。

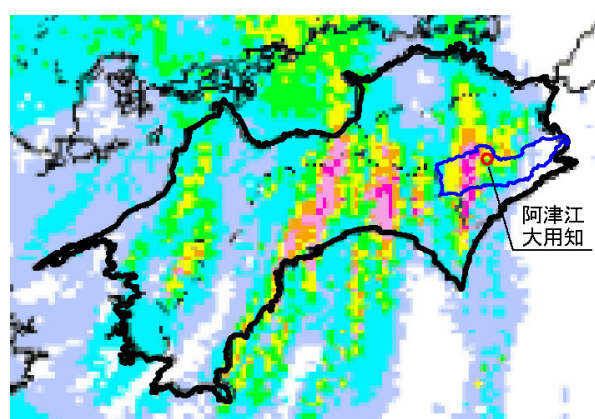
この集中豪雨により、那賀町大用知や阿津江では大規模な地すべりが数カ所で発生し、2名の方が亡くなりました。崩壊した土砂は、一気に坂州木頭川から長安ロダム貯水池に流れ込み、平成16年のダムへの堆砂量は約200万 m^3 にも達しました。

現在は、追立ダムに堆積している土砂を除去し、長安ロダムへの土砂流入を抑制しています。しかしながら再度の豪雨により多量の土砂が長安ロダムに流入する可能性があることから、長安ロダムの堆砂対策は緊急の課題となっています。

台風上陸6時間後
(平成16年7月31日午後10時)



台風上陸16時間後
(平成16年8月1日午前8時)



降雨量実況図 (気象庁提供)



那賀町阿津江地区の地すべり状況



那賀町大用知地区の地すべり状況